

慶応三年八月十四日より慶応三年八月十九日まで

紅楓黄柳尽辞枝 落葉埋庭堆過□ 寄語園丁暫休掃 蟲声昨夜那边多

P8310708right

張札、川口御普請場激徒連、加納(次□)巷説等件々密告す、御普請場見廻る、御用状(元操練所模様替 並)

(当地測量図廻方の義英へ引合都筑(駿)、溝口(□)へ一書(山本長の義新藤(銘)、(山本文の義

山本(長)返書加州返書其外取人名前

□書(両)御場所模様等、宅状とも明日届立の積り、多吉へ渡す、(京)滝沢(嘉)より騎兵方兩人去る二日土州へ向

出船いたし者の(安否)動止聞糺し申入様、伊賀守殿よりも御□有し旨(夜九時前)文通届、直に兵庫詰組の者呼び遣す

十五日未 雲卷舒夕晴

大坂同役より乗切使(調役並)にてシール帰濱の義談判異存の旨、縷々申越、猶直に答書遣し引続落件

を認め当一書遣す、兵庫詰組の者、昨達により来る取糺方申含め遣す、御場所見廻る

兵庫詰組より

相糺候、騎兵方兩人共、昨着せし旨書面届越す、□時(京)滝沢(嘉)より右書付添申遣す、

朧月の一■

呼ぶ一同銘々へも朧の品為取遣す

P8310708 left

即日

笥水通辺奇石清 □児箇々漫横行 渠濃常慣肅事 ■没□磨墨聲

十六日申 晴午下雲夕前雨意

御城代より楮幣並会社差金御書式通廻し来る、当港碇泊順道丸乗組崎陽定役赤松(□)

遠藤(錢)■

同行来り面す、御場所見廻る、佐次金五、古往還筋巡歴済帰着、佐次絵図取しらべ持参 感服す

坂地より藤五郎帰り来る、隅勢兩人より縷々伝言あり

十七日酉 陰午下雨断続

御場所見廻る、多吉三度来る何れも瑣書也、支配向来る、一廉の義或は三度以下来る記す

十八日戌 晴午下陰

住僧方より彼是応遇有しに付、謝に土山宿の茶箱を以てす、御場所見廻る

十九日亥 雨午前止夕前漸に晴頓涼 暖度七十三度 (撰氏廿三度)

\*1:

(○)内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。22,

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。